

# 園長だより

## 挨拶

常々、保育に対しての御理解、ご協力をいただいていることに感謝しております。

夏の長雨、秋らしい陽気かと思えば、日中の夏日、昨今の気象の変化は異常といえます。気象の変化に歯止めをかけること、子ども達の未来を考えると真剣に大人が環境問題に取り組まなければなりません。2020年東京五輪は真夏の開催となり政府は国を挙げて環境問題に取り組むと言っていますが、まずは草の根の運動から私たちができることを取り組んでいかなければと思っています。

## 4年経ちました。



25年8月に園長に就任して4年になります。何年も前からいるような大きな態度でいるものの子どもの例えと4歳、基本的な運動機能が発達、食事、排泄、衣類の着脱などもほぼ自立してきている年齢、でも、まだまだ、大人の援助を十分に必要としている年齢です。そんな駆け出しの私に今まで多くの人に支えられ、援助を受け、園長職を務めてきました。

今後も子ども達の生活の場を守り、いきいきと充実した日々が送れるように自身の努力と多くの方々の支えと施しを受けやってまいりたいと思っています。

## 自ら育つ子ども達をみて

おおぞら保育園の子ども達、大好きです。天真爛漫な笑顔を見せ活発に遊ぶ姿、見ているだけで微笑ましくなるものです。

私は20年近く幼稚園で働いていました。昔から保育園と幼稚園の子ども達の比較は時折、取り出たされました。子ども達の表面だけみて優劣をつけることが大半

でした。「落ち着きがない」「わがままで」「協調性がない」等大人の都合で良い子とみられる子が優れているとみられる傾向がありました。子ども達の育ちをしつかりと感じ、育ってきた環境やその背景をわかったうえでの比較ならともかく根拠もないものに苛立った記憶があります。

園長就任前に江戸川区内の保育園で6年ほど働いていました。幼稚園からの転職で保育園の子ども達の姿に大きな動揺をみせた私、先にあげたように「落ち着きはなく」「話はきかない」「喧嘩はたびたび」等、子ども達の姿に困惑したものでした。ただ日を追うごとに「どうして」「なんで」ということから子ども達のみせる姿について様々な要因があるだろうと思うようになりました。



成育歴、家庭環境、それぞれの育ち、自身の保育、ひとつ一つ、微視的に考えていくことで子ども達のみせる姿、

行動の根っこには様々な要因があることを知り、自身の保育を考えなおすことに繋がっていきました。子どもを知り、子どもを理解するとそれまでの困惑から「自ら育とうとする子ども達との生活に明るい光がみえてきたものです。」子どもを知る、理解することは保育者としての欠くことのできない大切なこと、日々、追われ忙しい中でも子どもについて「知りたい」と思う気持ちがより良い生活を営めるための源になると思っています。

## 生活の基盤をつくること

保育園は子ども達が没頭し遊べる環境があり、仲間と共に知恵を出し協同し生活を営むことができる場所、幼い子ども達ではあるが子どもなりに自治的に生活ができるような空間であってほしいと考えます。

自分たちのことはできるだけ自分たちで行っていく、

保育士の導き、援助は不可欠だが子ども達主体の活動を経験させてあげたい、そんな生活が営めれば、「物事に没頭する＝集中、落ち着き」「仲間と協同＝自律と自立」の姿がみられるようになります。そして、何よりも人として生きていく様々な術を幼児期に体験し獲得できると考えます。

## 理想だけでは

少々、堅苦しく重たい感じで保育論らしきものを語ってみましたが理想だけでは前に進まずです。

現実を直視して、「焦らず、気負わず、すぐに結果を求めず、」園長が理にかなった保育理念を掲げても、その思いを子どもと共に実現し、より良い生活環境を作っていくのは現場の保育士です。



微力ながらも職員と心地よい汗を流し子ども達にとってより良い環境を作れるように今後も努めていきたいと思っています。

## 終わりに

善し悪しは別として昔から自分の思いを書き綴るのが好きでした。子ども達に関する仕事をしてからも読み手の迷惑をかえりみず、便りを出し続けたこともありました。

歳をとると共に「ほどほどに」ということを遅咲きながら知った昨今、これからは少しずつではありますが便りをだしていこうと思っています。

子ども達の「好奇心旺盛な姿」をみて楽しい生活が営めていること嬉しく思います。

次回は保育内容「音楽を考える」をテーマに書き綴ります。

( 園長 廣部 信隆 )